

3. 9ヶ月累計の経営成績、連結財務諸表等

【損益の状況】

		2006年度 9ヶ月累計	前年同期比増減率
売	上	35,599 億円	7.4 %
	高		
国	内	22,318 億円	2.4 %
海	外	13,281 億円	17.1 %

		2006年度 9ヶ月累計	前年同期比
営	業	577 億円	▲ 24 億円
利	益		

売上高は3兆5,599億円で、前年同期比7.4%の増収となりました。国内は前年同期比2.4%の増収です。携帯電話基地局やパソコンが減収となったものの、サービスビジネスが堅調に推移したほか、ロジックLSI、電子部品が増収となりました。海外は17.1%の増収です。英国や北米でのサービスビジネス、HDD、光伝送システム、UNIXサーバ、電子部品も増収となりました。

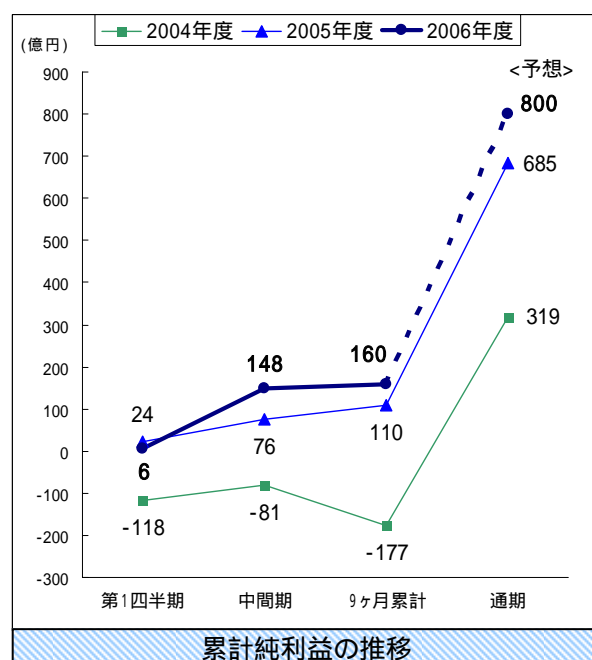
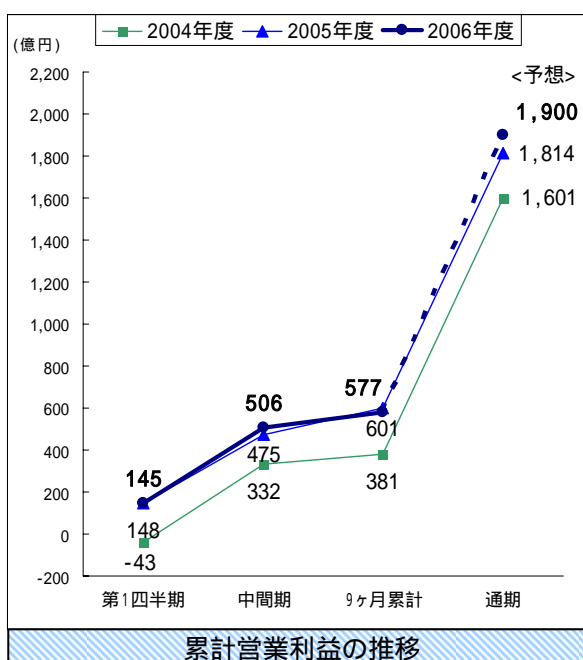
営業利益は577億円と、前年同期比24億円の減益となりました。売上総利益は427億円増加しましたが、販売費及び一般管理費が451億円増加しました。

サービスビジネスなどの増収効果はありましたが、第3四半期での国内のウィンドウズビスタ発売前の個人向けパソコンの買い控えや、デジタル家電分野での競争激化に伴うロジックLSIなどの急速な市況悪化に加え、HDDや光伝送システムなどでもグローバルに価格競争が激化しました。一方、ものづくり強化によるコスト効率化や、システム開発の効率化に向けた取り組みを推進しました。販売費及び一般管理費は、海外におけるビジネス規模拡大と戦略的な先行投資により増加しました。

経常利益は418億円で、前年同期比225億円の増益となりました。退職給付積立不足償却額の負担減少に加え、持分法による投資利益の増加や、有利子負債の削減による金融収支の改善などがありました。

連結子会社であるニフティ社の上場などに関連して、投資有価証券売却益および持分変動利益を特別利益に計上し、スパンション社株式の一部売却などによる投資有価証券売却損を特別損失に計上しました。

当期純利益は160億円で、前年同期比49億円の増益となりました。



【キャッシュ・フローの状況】

	2006年度			前年同期比		
	中間期	第3四半期	9ヶ月累計	中間期	第3四半期	9ヶ月累計
営業キャッシュ・フロー	1,840 億円	▲ 797 億円	1,042 億円	410 億円	▲ 863 億円	▲ 453 億円
投資キャッシュ・フロー	▲ 1,190 億円	▲ 529 億円	▲ 1,719 億円	▲ 148 億円	▲ 142 億円	▲ 290 億円
フリー・キャッシュ・フロー	650 億円	▲ 1,327 億円	▲ 676 億円	262 億円	▲ 1,006 億円	▲ 744 億円
財務キャッシュ・フロー	▲ 735 億円	▲ 412 億円	▲ 1,147 億円	▲ 583 億円	317 億円	▲ 266 億円

<2006年度の中間期末日休日の影響について>

	影響額
営業キャッシュ・フロー	752 億円
投資キャッシュ・フロー	214 億円
フリー・キャッシュ・フロー	967 億円

10月26日に公表した中間決算短信において、中間期末日が休日だったことによる買掛債務などの支払いが翌第3四半期に延伸となった影響について、営業キャッシュ・フロー約600億円、投資キャッシュ・フロー約200億円、計約800億円と記載いたしましたが、各債権債務の影響を精査した結果、営業キャッシュ・フロー752億円、投資キャッシュ・フロー214億円、計967億円の影響がありました。

中間期における営業キャッシュ・フローの前年同期比は410億円のプラスです。但し、中間期末日休日の影響額752億円および前年の受取和解金収入159億円を除くと、実質的には182億円の支払増でした。